

## おわりに

以上、我が国の民間被害者援助組織における、将来の、ボランティア援助者による犯罪被害者への直接的支援の展開に備えて、長くこれを実践している主としてアメリカの援助組織のボランティアおよび指導者向け研修教材について調査し、ここにその内容の一端を紹介させていただいた。充実した直接的支援によって知られるピマ郡検察局被害者証人プログラムの「ボランティア研修用ガイドブック」、飲酒運転による交通犯罪被害者への充実した支援を行うMADDの「被害者擁護者向け被害者支援の手引き」、および殺人事件によって子供を亡くした親の全国組織POMCの「地域リーダーのトレーニング・マニュアル」の3冊については、それぞれの記載より数項目を選び、詳しく訳出・紹介した。それらの項目の選択に際しては、ボランティアの活動内容がよく窺えるもの、我が国での直接的支援の実際に役立つもの、我が国でのボランティア研修教材の作り方に参考となるもの、などの点を重視している。

読み返してみて、あらためて、先人たちの経験の計り知れない重みを感じる。多くの教材は、実際の経験をもとにし、実務に役立つようきわめて实际的に作られている。被害者の心理の解説や対応のあり方などについては、理論的裏付けなしに断定的に書かれていると感じさせられるところも多いが、それでも内容的には、我々の経験からも十分納得の行くものがおおく、それが持つ重みを一層強く感じさせる。

日本の被害者支援は、アメリカの被害者支援に20年の遅れをとっていると言われる。日本の民間援助組織は、その遅れをどの様にして取り戻すことが出来るであろうか。視察・調査してみると、それは容易なことではないと、あらためて強く感じさせられる。本書の記載からも窺えるように、アメリカの多くの援助組織は、犯罪被害者のニーズをしっかりと中心に据え、如何にしてそれに適切に応えるか、そしてまた適切に応えられるボランティア援助者を養成するかということに、大きな力を注いでいる。その経験が蓄積され、ここに紹介するような充実した各種教材が作られ、それがさらにボランティアの能力を高めるという好循環が働いてきた。近年進展してきたとはいえ、直接的支援に容易には踏み出せない我が国の民間援助組織には、そのような意味での新たな経験の蓄積と循環が不足しているように見える。

本報告書には、我が国では必ずしもそのまま利用できないような、特定地域の病院や福祉施設についての情報などについても詳しく紹介した。直接利用できる利便性以上に、ボランティアたちの活動のありようと、その背景にある援助組織とボランティアの姿勢を伝えることが、より重要と思ったからである。ツーソンで、黒人とヒスパニックの二人の女性ボランティアによる夜間パトロールに同行させていただいたとき、その一人が「私はこの仕事を誇りに思っている」と爽やかな笑顔で話された。ビッキー・シャープ氏に、ツーソンに何故このように充実した被害者支援組織が作られたのかと聞いたとき、彼女がその説明の最後に添えられた、「Heart and Guts!」という言葉と共に、今も強く印象に残っている。

本報告書が、我が国の被害者支援の充実、とくに直接的支援の進展と、ボランティア援助者の研修訓練、そしてセルフ・サポート活動の発展に、役立つことが出来れば幸いである。